

政府、皇室、国民が考える象徴の意味

5年 ●●
附属指導教員 ●●

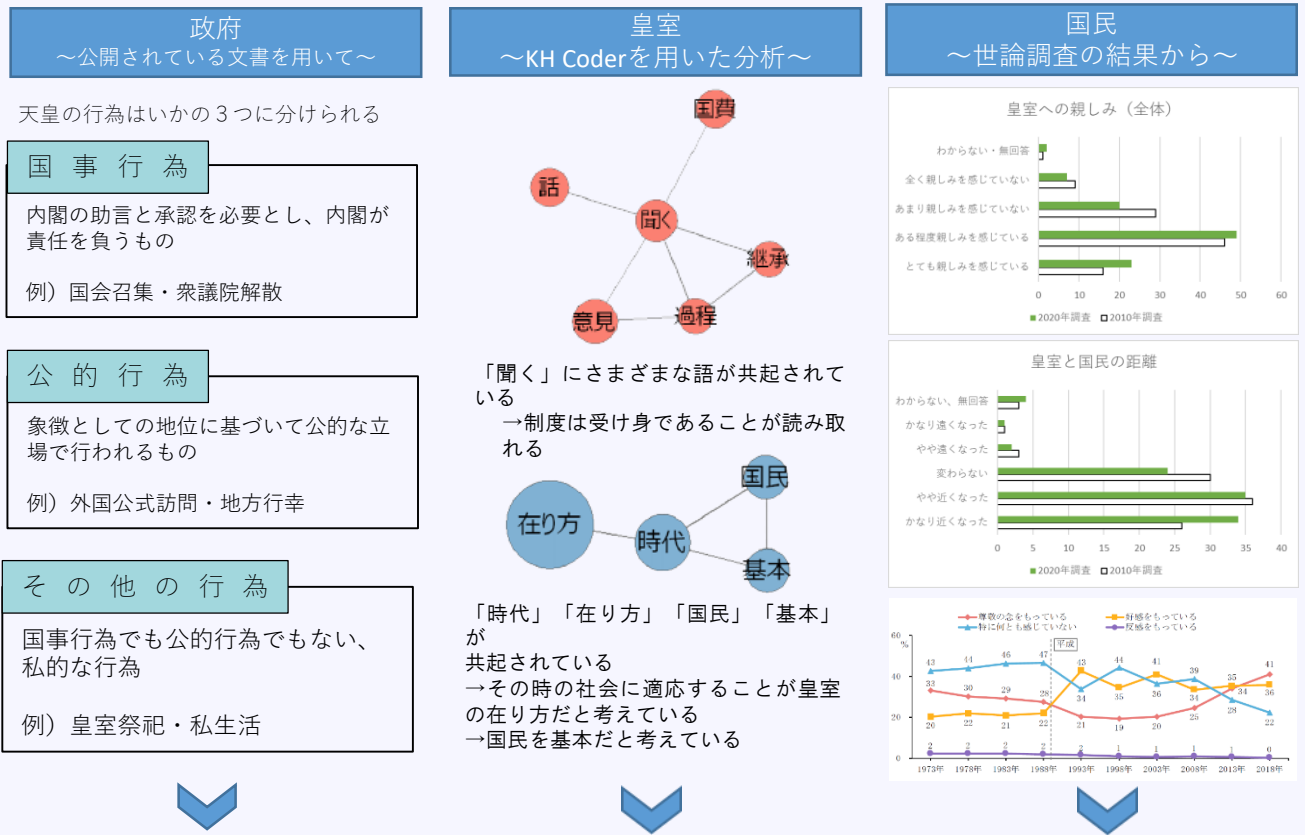
1. はじめに

近年、日本では皇位継承における女系天皇の問題が議論され、またイギリス王室では、ヘンリー王子夫妻の王室離脱が物議を醸している。しきたりとして継承されてきたルールが、近現代に入り他の観点から問題視されることやロイヤルファミリーの王室離脱問題を知り、皇室のこれからの在り方や役割を考えたいと思うようになった。戦後、人間宣言をされて以来「象徴」としてその存在が続いてきた天皇だが、「象徴」という言葉は曖昧でさまざまな解釈ができる。そこで本研究では国民が天皇、延いては皇室に対してどのような印象を持ち何を期待しているのか、また皇室は「象徴」としてどのような役割を担いたいと考えているのか、さらに政府は皇室をどのような立場に位置づけ、国民に捉えられることを意図しているのかを研究し、それぞれの立場から見た「象徴」の意味を考えていく。

2. 研究の方法

- ・公開されている文書や記者会見のお言葉、実施された世論調査の結果を用いて、政府、皇室、国民が天皇の象徴という性質ををどのように考えているかを具体的に読み取る
- ・調べたことから導き出せる仮説を立てて、それぞれの立場からみた象徴の意味を明確にする

3. 結果



政府は皇室を世の中の秩序を維持するための1つの機関と位置付けているといえるのではないかと

皇室は制度自体に重きを置いているのではなく、時代に適應した、国民に近い存在で在りたいと考えているのではないかと

国民は平成に入りますます皇室に対してポジティブな印象をもち、天皇を日本人の顔(理想像)として捉えているといえるのではないかと

4. 結論

上記の3つ仮説をさらに研究することによって、象徴という抽象的な存在である役割を担っている天皇にそれぞれの立場から期待される役割を具体的に表すことが可能になる。そこから時代が求めるよりよい天皇、皇室像を模索できると考える。

5. 参考文献

象徴天皇制に関する基礎的資料[http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kenpou.nsf/html/kenpou/choshukenshi013.pdf/\\$File/shukenshi013.pdf](http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kenpou.nsf/html/kenpou/choshukenshi013.pdf/$File/shukenshi013.pdf)
令和2年2月28日/憲法における天皇に関する主な国会答弁等、https://www.kantei.go.jp/singi/koumu_keigen/dai1/sannkou4.pdf、令和2月28日/NHK世論調査「平成の皇室観」<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/social/039.html>、令和2年2月22日「新時代の皇室観」https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/20200301_9.html、令和2年28日/秋篠宮皇嗣同妃両殿下の記者会見など、<https://www.kunaicho.go.jp/page/kaiken/top/3/>、令和2年2月28日

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、奈良女子大学生生活環境学部の●●先生にご助言いただきました。深く感謝申し上げます。